

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

○事業所名	チャイルドウィッシュHeart一宮			
○保護者評価実施期間	2025年11月17日 ~ 2026年1月17日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	40人	(回答者数)	31人
○従業者評価実施期間	2025年11月17日 ~ 2026年1月17日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7人	(回答者数)	5人
○事業者向け自己評価表作成日	2026年1月28日			

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	小学1年生から高校3年生まで幅広い年齢の利用者が在籍しているため、異年齢交流を通じて、自分の将来像を思い描きやすい点です。又就職や自立へ向けた活動を通して、将来へ繋ぐ支援を意識しています。	異年齢の小集団活動を活用し、支援者が多様な子どもとの関係性を築けるよう関わりが持てる機会を意図的に設定しています。子どもの意思や思いを適切にフォローすることで、自己表現や感情の共有をしやすい環境を整えています。又、心理士の考察により、より細やかな関りを意識しています。	法人内の事業所と交流する機会を継続的に作っていきます。様々な年齢や特性を持つ子ども同士が関わる機会を設けることで、多様な価値観に触れ、人との関わり方や関係性の築き方を学べる環境づくりをしていきます。自分の将来像を更に広げられるようにしていきます。
2	子どもたちの前向きな思考力や視点を育てることができる点です。	子どもたちが少しずつ成長していくよう、職員同士で日々話し合いをしています。職員も一緒に思いきり遊び、関係性を大切にし、「今日も楽しかった」と思ってもらえる居場所作りを心がけています。 一緒に体を動かす遊びを通して、運動・感覚や認知・行動への働きかけを行うとともに、安心して過ごせる生活リズムや気持ちの安定を支えるかかわりを意識して取り組んでいます。	自分の気持ちや考えを表現できる子どもたちには、将来どのようになりたいのかを確認し、その実現に向けて一緒に取り組んでいきます。また、上記が難しい子たちには、活動の個別目標を明確にし、振り返りや役割を与え、経験が積み重なる支援を5領域の視点を持って更に充実した支援をしていきます。
3	土曜日や長期休暇は、イベントを多く開催することができる点です。	土曜日は中高生の利用が多く、電車での外出や買い物体験を通じて、将来の自立へ向けた実践的なスキルを育む支援を行っています。繰り返し経験する中で、子どもたち自身が中心となつて取り組む活動も意識定期に増やしています。それにより、自立性が育ち、自分で考えて動く力へ繋げています。 イベント以外にも、中高生になると体を動かす機会が減るため、保護者からたくさん体を動かしてほしいという要望があります。そのため、相撲やドッヂボールなどの粗大運動をして、運動・感覚に対するアプローチなども満遍なく行っています。	これまで取り組んできましたが、子供たちの意見を取り入れながらお出かけ先を決めたり、イベントと一緒に企画・実行したりすることで、主体的に参加できる機会を増やしていきます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援ルームの大きさについて。	子どもたちの成長により、活動スペースや環境面で工夫が必要な場面が出てきた。	空間を工夫して、活動エリアを分けることで子どもたちが様々な相手と関わりながら遊べる環境を整えていきます。体を動かすスペースや制作、落ち着いて過ごせる場を設けることで、運動・感覚や生活面の配慮を行うとともに、遊びの選択や切り替えを通して、認知や行動面へのアプローチにつなげていきます。
2			
3			